

前号では名詞節内での接続法を取り上げましたが、今号では引き続き副詞節での接続法の用法を見ていきましょう。流れとしては、①常に(または原則として)接続法が使われるケース、②直説法と接続法の使い分けが必要なケース、と大きく前半と後半に分けて説明します。

まず常に接続法を取る副詞節ですが、「目的」が最もわかりやすいでしょう。目的の接続詞には、*para que*, *a fin de que*, *con el fin de que* などがあります。

Señor cliente: Tomaremos medidas **con el fin de que** este error no **vuelva** a ocurrir.

お客様: 二度とこのような間違いが起こらないように対策を取るつもりです。

続いて条件の副詞句でも接続法が使われます。代表的な接続詞は、*como*, *con tal (de) que*, *a condición de que*, *en (el) caso de que*, *a no ser que* などです。ただし *si* という接続詞を使った構文だけは別格と考えてください(33号参照)。

Te pediré la colaboración **en caso de que** yo la **necesite**.

必要な場合は君に協力を頼むだろう。

「否定」を表現する接続詞句 *sin que* の後にも接続法が使われます。当該の事象が実現されないのですから。

Vamos a entrar en la habitación **sin que** nadie nos **vea**.

誰にも見られることなく部屋に入ろう。

ところで、*porque* や *ya que* といった「原因」の副詞節はその意味合いから直説法が使われます。ただ、接続法が使われるケースもあるので例を見ておきましょう。

No hablo con él, **porque** yo **estoy** enfadada.

私怒ってるんで、彼とは話さないわ。

No hablo con él **porque** yo **esté** enfadada.

私怒ってるから、彼と話さないというのではないの。

前者の例では否定の *no* が文の最後まで影響しません。それに対して後者の例では *porque* 以下にも否定が及びます。*porque* 以下の「怒っている」ことは否定されているので接続法が使われます。

さて、後半では直説法と接続法の両方の可能性があるケースを見ていきましょう。譲歩の代表的な接続詞は *aunque* です(*a pesar de que*, *pese a que* もほぼ同じ意味です)。場合によって直説法または接続法が使用されます。

Vamos de excursión **aunque** **llueve** hoy.

今日雨が降っているが遠足に行こう。

Iremos de excursión **aunque** **llueva** mañana.

明日雨が降ったとしても遠足に行こう。

前者では「実際に」雨が降っているので直説法、後者では明日のことで「まだ未確定」なので接続法が使われます。つまり、「事実」ならば直説法、「仮定」なら接続法です。しかし、事実であるのに接続法が使われることもあります。

Aunque **sea** española, Carmen no baila flamenco.

スペイン人なのにカルメンはフラメンコを踊らない。

この例では直説法 *es* も可能です。では、あえて接続法を使うのはどんな理由と効果があるのでしょうか。カルメンがスペイン人であることは話し手も聞き手も知っていることです。そこでこれを主張する必要はありません。この事実を「前提」として後半部を際立たせて主張するために接続法が使われるのです。

譲歩の接続詞の中には常に直説法を取るものもあるので注意が必要です。*a sabiendas de que*, *y eso que*, *si bien* などです。

Si bien Andalucía **es** la imagen típica de España, otras regiones norteñas son también muy atractivas para los turistas

アンダルシアはスペインの典型的イメージではあるが、北部地方もまた観光客にとっても魅力的である。

「時」の副詞の代表は *cuando* ですが、*siempre que*, *una vez que*, *mientras*, *en cuanto* など実に多様です。原則として当該の事象が起こっていれば直説法、未確定であれば接続法が使われます。

En cuanto **salga** la convocatoria de la plaza de ayudante, avísemelo sin falta.

助手の職の募集が出たらすぐ私に知らせてください。

時間の前後関係を表す表現として *antes (de) que* と *después (de) que* があります。前置詞の *de* が入る場合と入らない場合があります。方言や個人の好みに依り、スペインでは *de* 入りが普通のようなです。

Antes de que me **olvide**, te doy mi nueva dirección.

忘れる前に君に新しい住所を伝えておこう。

Después de que **terminen** los Juegos Olímpicos, se destruirá ese estadio.

オリンピックが終わるとそのスタジアムは取り壊されるだろう。

antes (de) que の場合は、節内の行為はまだ実現していないので常に接続法が使われます。一方、*después (de) que* の場合は、両方の可能性があります。上記の例は未実現なので接続法現在ですが、その行為が既に実現している場合は直説法過去になります。

Después de que **terminaron** los Juegos Olímpicos, se destruyó ese estadio.

オリンピックが終わった後、そのスタジアムは取り壊された。

ただ実際にはこのような既に起こっている(つまり事実である)場合でも、接続法が使われることがあります。その場合は上記の例文は "**Después de que terminaran los Juegos Olímpicos, ...**" となります。この用法は特にスペインで見られるジャーナリズムの文体だと云われています。理由として様々な説があるのですが、「オリンピックが終わった後」は副次的な情報で、後半の「そのスタジアムが取り壊された」に話者の力点が置かれているのだと解釈できます。*desde que* についても同じ現象が起こります。

副詞句内での法の選択は、直説法と接続法の両方可能なことが多いので学習者にとっては悩みの種です。しかし、両方が可能な場合でもどちらを使うかによって意味やニュアンスが異なるのが普通です。ですから個別の用法を例文とともに確実にものにしていくのが学習の王道ではないでしょうか。



仲井 邦佳 / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習』(共著、同学社)などがある。